



新築の家のなか、独特のにおいにクラクラした経験を持つ人も少なくないはず。このにおい、建材などに使われた化学物質が源のことが多い。こうした化学物質で室内空気が汚染され気分が悪くなるなどの「シックハウス症候群」いわば新築病への関心が高まり、自然素材の家作りが注目されている。

福岡県で一昨年七月、新築住宅に引っ越した一家で、子どもが突然倒れた。この家族は住宅完成一ヶ月半後に入居、引っ越しまで換気はしていないかった。倒れた時も窓を閉めエアコンをかけており、医師は「建材の接着剤のホルムアルデヒドが原因と思われる」と診断した。

東京の住宅部品PL(製造責任)センターが調べたところ、この住宅のメーカーは「入居当初は換気に留意を怠る」と警告表示を住まいのし

おりなどに記載していなかつた。センターは注意義務違反

と指摘。メーカーは一家に謝罪し、両者は和解した。

同センターには過去二年間で、こうしたホルムアルデヒドや揮発性有機化合物(VOC)による健康被害の苦情が三十件あったが、解決は三件だけ。残りはホルムアルデヒド濃度の測定費用(申立者負

担)がかかり検査できないなどで、化学物質と被害の因果関係が特定できていない。

だが同センターの岡屋武幸室長は「建材に化学物質が使われおり、これらの微量の化学物質に反応する人がいるのは事実。シックハウスを防ぐには内装材に化学物質を使わないか換気するしかない」と指摘する。

具体的には、自然素材で家を建てる方法がある。東京の建築家、山中文彦さん(西二)は、首都圏の他の建築家や工務店および杉の産地・山形県の金山町森林組合、材木商などと「木の家づくりネットワーク」を結成。年一、二回、一般向けに「木の家作り学校」を開き、住民に刺激のない木の家作りを提案してきた。

シックハウス症候群
を防ぐには自然素材
の家作りが有効

「木の家づくりネットワーク」の教室で

「シックハウス」を防ぐために…

化学物質が起こす新築病

昔ながらの木やしつくいで

木の家づくりネットワーク

計で家を建て替えた。「新建材による被害を目にしたので、昔ながらの家に住めないかとお願いし、しつくい壁を

「病気を治すのは医師の仕事だが、私たちは住環境を良くすることは出来る。換気など住まい方も考えて」活動をしている。

Aさん(五九)は、山中さんの設

「自然素材の家」を提案

木は、金山町の金山杉をはじめ、木製サッシ、和紙、しつくいなど。山中さんは、自然素材を使った日本の伝統的な木の家を取り戻せばシックハウスはなくなると言ふ。

一昨年末、東京都調布市の

同ネットワークが勧める素材は、金山町の金山杉をはじめ、木製サッシ、和紙、しつくいなど。山中さんは、自然素材を使った日本の伝統的な木の家を取り戻せばシックハウスはなくなると言ふ。自然素材によるリフォームを省いており「ケースにも万円ができる(山中さん)。自然素材によるリフォームを研究するグループも。シックハウスに悩む人や建築関係者で作る「エコロジー・リフォーム・ネットワーク」(事務局・横浜市三尾建設HC)では公開講座を開く、実際にリフォームを請け負うなどの活動をしている。